

地域ネットワークニュース

～12月の勉強会のお知らせ & 11月の勉強会報告～

第146回地域ネットワーク勉強会

事例から学ぶ

発達障害児への支援

講師：茨城県発達障害者支援センター 高松秀彦氏

12月2日(水) 19:00～
保健・福社会館 研修室



参加費無料

茨城県発達障害者支援センターでは、幼児期から成人期まで幅広く年齢に問わず相談を受けております。特に成人期の相談件数は増加傾向にあり、幼児期からの早期の発見と適切な支援、支援者や周囲の人々の理解が重要になってきます。

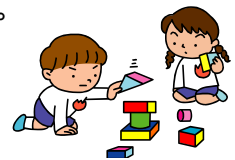
支援者はそれぞれ今できることを考える必要があります。幼児期から適切に支援・対応していくこと、幼児期、就学期、学齢期、成人期への橋渡しを支援者間で共有していくことが求められています。成人期からの発見や支援は、二次的障害（統合失調症、うつ病、対人恐怖症など）の発症も伴うことが多く、支援は困難になります。

今回の勉強会では、発達障害者支援センターに寄せられる多くの相談内容や、それぞれの研修会等であげられる質問から、幼児期の具体的な対応事例をもとに発達障害児支援のあり方についてご教示頂きます。

子どもが将来、自信を持って地域で生活できるように、それぞれの立場で、「今、できること」を一緒に考えましょう。保育園・幼稚園の保育者、学校関係者は必見です。

発達障害者支援センターとは…

社会生活への適応が困難な自閉症、発達障害の特性を踏まえ、生涯一貫したきめ細やかな支援を行うため、これらの障害を持つ方やその保護者の方からの相談に応じるとともに、家庭・保健・福祉・医療・教育・機関等の関係機関連携の中心として、専門的支援のためのバックアップを行う機関です。



第145回地域ネットワーク勉強会 報告 平成21年11月11日開催 <参加者62名>

発達障害の特性を理解しよう

【講師：ホープ発達教育研究所

合田光子氏】



第5期発達障害療育者研修会(全5回/夜間講座)の1日目と合同で開催された第145回勉強会は、講師に合田光子先生を迎え、障害のある子どもの感覚を様々な実験を通して体感しながら、子の思いと親の思いを感じ取ることの大切さについて講話されました。

発達障害児・者には、一貫した支援体制の下でゆっくりとした発達を支えることが大切であるということ。また、その親は明るく表面的には頑張っている、つらさや不安を抱えているということをお話がありました。

発達障害の特性を理解すること、子どもの思いを知り、寄り添って支援すること、楽しい経験を積み重ねられるような配慮をすることは、障害がある子だけでなく、全ての子どもたちに大切な配慮であることが理解できました。

お問い合わせ：神栖市社会福祉協議会 まちづくりグループ 0299-93-0294